

学校評価計画

令和6年度 学校自己評価シート

福生市立福生第三中学校 校長 増木 一 仁 印

学校教育目標														
・よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒を育成する。 ・ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒を育成する。 ・責任を果たし、みんなのために働く生徒を育成する。 ・美しいものをもとめ、豊かな心をもつ生徒を育成する。														
目指す学校像（ビジョン・ミッション）														
学校教育目標（めざす生徒像）の具現化に向け、中学校が義務教育9年間における最終段階という認識のもとに、「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」を基本姿勢とする。そのために自尊感情や自己肯定感の育成とともにキャリア教育の充実を図り、確かな学力と自らを律し行動できる生徒の育成を目指す。学校教育目標（めざす生徒像）の具現化を、「自立」「共生」の2つのキーワードでくり、教育活動を展開する。														
【目指す学校像】			【目指す教師像】			【目指す児童・生徒像】			【その他 特記事項】					
生徒にとって、安心安全で、認められ楽しい体験ができる学校。また「開かれた教育課程」を推進することで、生徒や保護者だけでなく、地域住民からも信頼され、次代を担う人材を育成し地域に貢献する学校。			①人権感覚に優れ、生徒の人格を重んじ、情熱をもって職務を遂行できる教師 ②教育公務員として使命と責任を自覚し、生徒と共に成長する姿勢をもち、組織貢献できる教師			・よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒 ・ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒 ・責任を果たし、みんなのために働く生徒 ・美しいものをもとめ、豊かな心をもつ生徒			・全ての教育活動で、自尊感情・自己肯定感の育成の視点をもち、自信・やる気、確かな自立を育む教育活動の推進					
領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価				成果指標（児童・生徒等の変容・成果）	成果自己評価				分析・改善策
					当初	中期	年間	評語		当初	中期	年間	評語	
学力向上 生活・進路指導	主体的に学習に取り組む生徒の育成 指標 生徒アンケート 保護者アンケート 教員アンケート 学校関係者評価 福生市学力調査結果 全国学力学習調査結果 都立高校入試の結果	授業力の向上 ・「学ぶ楽しさを感じる授業」「分かる授業」を実践する。 ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 ・一人1台端末を活用した授業へ取り組む。	・生徒にとって、①「学ぶ楽しさを感じる授業」②「分かる授業」を実践し、生徒による授業アンケートで検証する（各学期末に実施） ・「学び合い、教え合い、高め合う集団の育成」をテーマに研究授業や外部講師を招聘した研修会を実施する。 ・ICTの活用方法について情報交換し合う。	○ 教員の達成状況 100% A // 80% B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	生徒による授業アンケート①「学ぶ楽しさを感じる授業」肯定的評価82% ②「分かる授業」肯定的評価85%である。今後も課題を意識させ、学習の見通しを立てたり振り返り等により、生徒の主体性の育成に力を注ぐ。				
				○ 教員の達成状況 100% A // 80%以上 B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A		○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A		達成 B B B B	外部講師を招聘した校内研修が充実し各教員の授業改善につながった。成果の肯定評価は生徒84%、保護者75%であり、取り組みを学校日より等より周知していく必要がある。		
				○ 教員の達成状況 100% A // 80%以上 B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A		○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A		達成 B B B B	一人1台端末を活用した授業への意識は高くなっているため、より効果的な活用ということで情報交換を活発にさせたい。		
生活・進路指導	自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成 指標 生徒アンケート 保護者アンケート 教員アンケート 不登校生徒対応	・生徒が自己に自信をもち、自尊感情の向上から自分自身に価値を見出せる生徒を育成する。 ・キャリア教育の充実を図り、主体的に目標を設定、達成させる。	・「安心安全で、認められ、楽しい体験ができる学校づくり」と関わりの中で、他者から認められ、感謝される体験による自尊感情や自己肯定感の育成を図る。 ・個々の生徒が自らの目標を設定でき、その実現に努力できるように、キャリア教育の充実及び改善を図る。	○ 教員の達成状況 100% A // 80%以上 B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	どのアンケート項目も生徒、保護者ともに肯定評価が80%以上であり、「いじめは絶対にいけない」は生徒の100%が肯定評価であり、「良さを認めてくれている」は生徒の91%、保護者の87%が肯定評価であった。安全安心で認められる環境づくりを継続して自尊感情や自己肯定感を高めていく。				
				○ 教員の達成状況 90%以上 A // 80% B // 80%未満 C // 80%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 B B B B	達成 B B B B	教員の評価は90%ほどであるが、生徒84%、保護者79%の肯定評価であり、さらにキャリア教育の充実をはかる必要がある。				
学校運営	組織的な分掌運営による学び続け、学び合う職員文化の醸成 指標 自己評価の確実な実施 特別支援教育の充実	・教職員相互の理解に努め、緊密な連携の下で教育活動を推進する。（報・連・相の重視） ・特別支援教育の充実と教育センターとの連携を確実に実施する。	・教員各自が自己の役割と責任を深く意識し行動する。 ・主幹・主任教諭等が常に授業実践・研究協議等でリーダーシップを発揮する。 ・特支教育の専門性の向上のために研修会を行う。 ・校内支援委員会をコーディネーターを中心に組織として機能させる。	達成状況を自己申告面接等で確認する。	目標 <目標> 小規模校の長所や強みを考察し、本校の特色のある教育の実現を図る。 <達成> 各自が自己の役割と責任を意識して学校経営に意欲的に参加する学校文化を醸成する。 <達成> 教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、常に緊密な連携のもとに日々の職務にあたるよう副校長を中心に努力した。	目標 B A A A	達成 B B B B	・特別支援教室の教員が講師となり、特別支援教室の教育内容や通う生徒の発達遅れの状況等、充実した教員研修会が実施できた。 ・また、校内支援委員会も組織として機能した。	目標 A A A A	達成 A A A A	教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、緊密な連携のもとに教育活動を進めることができた。今後も職場風土を大切にしていきたい。			
				○ 教員の達成状況 100% A // 80% B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	教職員の特別支援教育の理解を深めることができた。今後は校内支援委員会をさらに機能させていく必要がある。				
特色のある学校づくり	2大行事の充実 地域社会との協働（CS委員会）	・体育祭と音楽会を2大行事と位置付け、生徒の達成感や自尊感情、帰属意識の醸成を図る。 ・地域に開かれ、地域に信頼され、地域と共に歩む学校づくりの推進する。	・各行事の実行委員会及び生徒会を行事のリーダーとして育成し、生徒主体の活動を推進する。 ・コミュニティ・スクール委員会を中心に、地域との連携と学校支援組織の活性化を図る。	○ 教員の達成状況 100% A // 80%以上 B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	○ 生徒・保護者の肯定評価 90%以上 A // 80% B // 60% C // 60%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	教職員、生徒、保護者ともに80%以上の肯定評価となっており、今後もより達成感や自尊感情、帰属意識の醸成を図れるようにしていく。				
				○ 教員の達成状況 100% A // 80%以上 B // 50% C // 50%未満	目標 A A A A	達成 A A A A	・「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」など地域を巻き込んだ、生徒が主体となって活躍できる場を多く設定することができ、達成感を得ることができた。CS委員会は年間6回開催でき、具体的な活動も充実し、地域貢献・ボランティア精神の涵養につながった。	目標 A A A A	達成 A A A A	年間を通したCS委員会は、順調に実施することができ、活動も充実できたが、持続可能な組織とするためのスタッフの確保が今後の課題である。				

領域例：学力向上策、生活・進路指導策、人材育成策、研究研修策、学校運営策、特色ある